

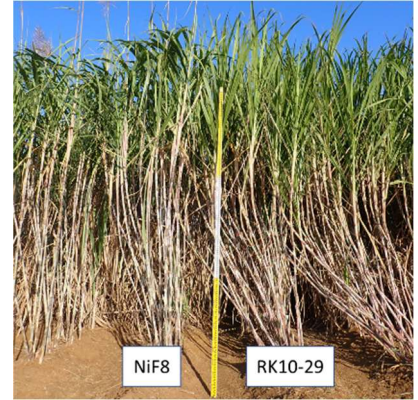
さとうきび有望品種「RK10-29」について

1 生育について

春植え栽培での発芽率は既存の品種と同等です。一方、株出し栽培での萌芽数は既存品種をやや上回ります。また、5月以降の分けつが非常に旺盛で、7月1日時点での茎数は、既存品種を大きく上回りました(表1)。

表1 「RK10-29」の初期生育

	発芽率 (%)	萌芽数 (千本/10a)		7/1 茎数 (千本/10a)		
		春植	1株	2株	春植	1株
RK10-29	58.5	8.1	12.6	19.7	17.1	21.9
NiF8(標準)	56.6	7.6	8.4	13.8	11.7	14.5
Ni23(比較)	58.6	7.4	8.4	15.2	12.9	15.2



2 収量・品質について

「RK10-29」の原料茎数および原料茎重は、すべての栽培型で標準品種の「NiF8」や普及品種の「Ni23」を上回ります。特に、株出し栽培の原料茎重は、NiF8を上回ります(図1)。糖度は「NiF8」に比べて低いものの、基準糖度帯(甘蔗糖度13.1~14.3)以上となっています(図2)。

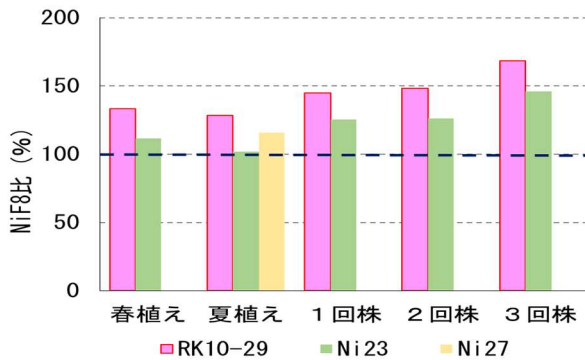


図1 原料茎重 (NiF8比)

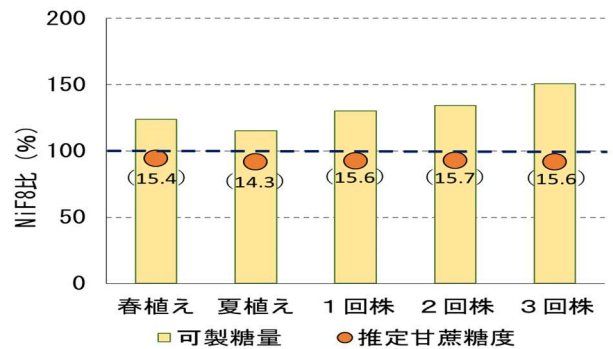


図2 「RK10-29」の糖量および糖度 (NiF8比)

3 黒穂病抵抗性について

既存の奨励品種の中で最も強い“極強”に分類されます。

評価	極強	強	中	弱
品種名	RK10-29	NiF8 KN00-114	Ni22 Ni27	Ni23 はるのおうぎ

令和6年度、さとうきびの新品種「RK10-29」が、本県の奨励品種に選定されました。栽培型を問わずさとうきびの単収が増加し、生産量増加が期待できます。また、黒穂病の発生リスクも軽減され、安定したさとうきびの生産や生産者の所得向上、規模拡大につながる事が期待されます。